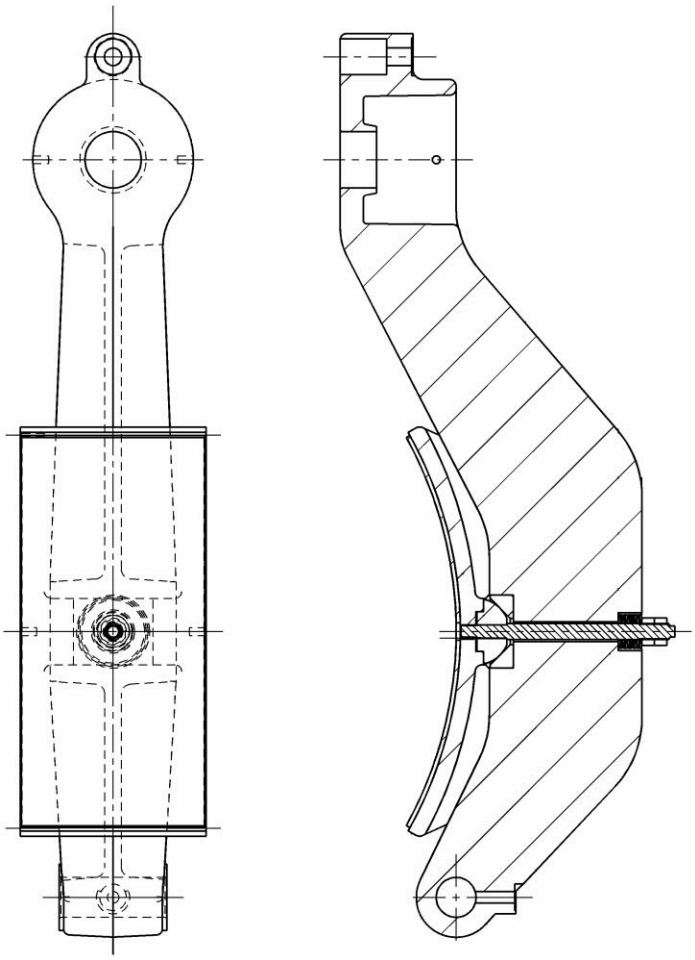
ブレーキパッドの厚さ



- 磨耗状態の検査方法
- 要是正の判定基準

改訂日　令和 8 年 11 月 16 日

日本オーチス・エレベータ株式会社

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

「製品に関する技術情報」利用規約

製品に関する技術情報（以下、本情報とします）は建築基準法第１２条第３項に定められた定期報告制度に基づく検査及び報告を実施するにあたって製造者である日本オーチス･エレベータ株式会社（以下「弊社」といいます）が提供する技術的情報です。
なお、本情報を利用する弊社社員以外の者（以下「利用者」といいます）は、以下の項目に同意、了承の上で利用したものとみなします。

1. 利用者は、本情報を昇降機に関する適切な知識、技術を有する者が本情報に指定された機種、部位に限定して利用させるものとし、利用に関連して生じた責任の一切は利用者、あるいは作業者または作業請負者が負うものとします。
2. 本情報の利用にあたっては、記載された作業者及び第三者の安全確保のための手段、工具、作業手順等を遵守して利用するものとします。
3. 本情報に基づいた検査を行った結果、部品の取替え、調整等が必要となった場合は、速やかに所有者等のすべての利害関係者へ報告し適切な措置を講ずるものとします。
4. 本情報に記載された機種、部位以外での利用、誤った利用、本情報利用時及び利用後の故障、誤動作、不具合等に起因する利用者及び第三者の損害（通常損害および特別損害、逸失利益およびその他一切の損害を含む）について、弊社は一切その責任を負わないものとします。
5. 本情報を不正に利用あるいは本利用規約に違反したことによって、弊社に何らかの損害が発生した場合、利用者はその損害の一切を賠償するものとします。
6. 本利用規約は昇降機の利用者、本情報の利用者の安全確保のために予告なく変更する場合があります。

2008 年 4 月 1 日
日本オーチス･エレベータ株式会社

建築基準法第 12 条第 3 項

昇降機及び第６条第１項第１号に掲げる建築物その他第１項の政令で定める建築物の昇降機以外の建築設備（国、都道府県及び建築主事を置く市町村の建築物に設けるものを除く。）で特定行政庁が指定するものの所有者は、当該建築設備について、国土交通省令で定めるところにより、定期に、一級建築士若しくは二級建築士又は国土交通大臣が定める資格を有する者に検査（当該建築設備についての損傷、腐食その他の劣化の状況の点検を含む。）をさせて、その結果を特定行政庁に報告しなければならない。

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

目次

1.はじめに....4
2.警告表示及び諸注意....4
3.昇降機専門技術者へのお願い....5
4.検査用具（治具・工具）....5
5.検査手順....6
5.1 エレベーター....7
5.1.1 ドラム式ブレーキ....7
5.1.2 ディスクブレーキ....9
5.2 エスカレーター....14
5.2.1 ドラムブレーキ....14
5.2.2 ディスクブレーキ....15
5.2.3 ディスクブレーキ（Next Step）....15
5.3 小荷物専用昇降機....16
5.3.1　6BT、BZ マシン以外の小荷物専用昇降機....17

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

1.はじめに

この説明書は、日本オーチス・エレベータ株式会社（以下日本オーチス）が、当社の設計基準に基づいて昇降機の専門技術者を対象に作成しています。
安全を確保するために、本説明書を熟読して下さい。
検査に当たっては、実機と本書に記載されている写真や挿入図を確認し実施して下さい。
本書に記載の諸作業の実施については、専門技術者（用語の定義を参照）を対象としているので、必要な安全処置については実施されていることを前提としています。

	警告		強制	内容を理解し、且つ使用頻度、利用状況、その他を考慮し、エレベーターを適切な状態に維持して下さい。
	警告		禁止	本資料の内容は、関係者以外の方に開示しないで下さい。 一般の利用者が本資料より知り得た情報をもとに、エレベーターを操作または　運転した場合、思わぬ事故が起こるおそれがあります。

2.警告表示及び諸注意

警告表示マークの定義
次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

	**危険**	危険事項を守らないと、死亡や重傷に至る重大な事故を起こすおそれが、切迫してあります。
	**警告**	警告事項を守らないと、死亡や重傷に至る重大な事故を起こすおそれがあります。
	**注意**	注意事項を守らないと、傷害を負ったり、物的損害が発生するおそれがあります。

次の表示の区分は、本文中の追加説明として記載しております。

★重要	点検時、作業時に留意していただきたい項目を記載しています。 必ずお読みください。
参考	説明、手順の中で、ほかの記載を参照する項目の参照先を示しています。
☞参照	説明、手順についての補足項目、参考項目などを示しています。

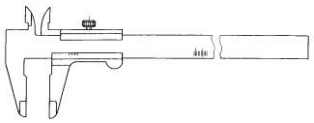
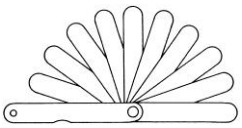
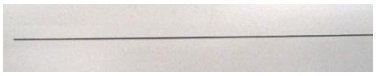
© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

3.昇降機専門技術者へのお願い

専門技術者とは昇降機の保守・点検を専門に行う技術者で、本書では昇降機検査資格者、または昇降機に関し専門の教育、研修を受けた技術者を想定しています。

	警告		感電注意	主電源を遮断しても一部の機種では、制御盤内に充電部があるので確認を行い注意して作業してください。

4.検査用具（冶具・工具）

名称	部品番号	外観	用途
ノギス	JIS B 7507 相当品		ブレーキパッド厚さ測定用
ブレーキパッドスケール	JAA27ABZ1		
隙間ゲージ	JIS B 7524 相当品		
テーパーゲージ	推奨　新潟精器 品番 TPG-700A		ブレーキパッド厚さ測定用 ホームエレベーター （5.3.1.1　K03B 用）
ブレーキパッドゲージ	JAA719ABP1		T3.5,T5.2,BOMCO3 ブレーキパッド厚さ測定用
Φ0.5mm ピアノ線	―――		Order REVO,T6.8 ブレーキパッド溝確認用

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

5.検査手順

測定作業は、下記に留意して行って下さい。

	**警告**		**感電注意**	電源遮断を必要とする作業は、必ず主電源ブレーカーを遮断すること。
	**警告**		**手を挟まれないよう注意**	主索や綱車などの回転物に直接触る作業が必要な場合、必ず主電源ブレーカーを遮断すること。
	**警告**		**回転物注意**	主索や綱車などの回転物に直接触る作業が必要な場合、必ず主電源ブレーカーを遮断すること。

概要

平成 20 年 国土交通省告示 283 号「昇降機の定期検査における検査の項目、事項、方法及び結果の判定基準並びに検査結果表を定める件」に記載されている検査項目「巻上機ブレーキのパッドの残存厚みの状況」に関して、製造者が指定する検査方法及び検査結果の判定基準を開示するものです。

はじめに

巻上機ブレーキパッドは、使用に伴い経年的に摩損、摩耗します。摩損、摩耗が進行すると、ブレーキ性能の低下や制動状態の悪化を招くおそれがあるため、定期的な点検および適切な判定が必要です。
本資料に示す方法に従いブレーキパッドの残存厚みを測定し、その結果に基づいて判定を実施してください。判定の結果、基準値を超える摩損、摩耗が確認された場合は、速やかに適切な措置を講じてください。
ブレーキパッドの摩損、摩耗が進行した状態で使用を継続すると、着床段差やスリップの発生原因となり、故障または事故につながるおそれがあります。検査の実施にあたっては、本資料を熟読し、内容を十分理解した上で実施してください。
本資料では、左右のブレーキパッドを測定し、そのうち最も摩損、摩耗の進んだパッドの測定結果を用いて判定を行います。

ブレーキ形状の確認

弊社製のブレーキは、ドラム式とディスク式の２種類があります。
検査対象となるブレーキの形状を確認した後、ブレーキパッドの摩損、摩耗量の測定をしてください。

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

5.1 エレベーター

5.1.1 ドラム式ブレーキ　★重要

ドラム式ブレーキは、スプリングにより左右のブレーキアームに取り付けられたブレーキパッドでドラムを挟み込んで制動力を得る構造になっています。
ブレーキパッドの固定方法別に以下のように判定方法が分類されます。
また、巻上機の形状によりスプリング、ブレーキコイル、ブレーキアームの位置及び形状が異なります。
左右のブレーキパッドの残存厚みを測定し、そのうち最も摩損、摩耗の進んだパッドの測定結果を用いて、判定基準に基づき検査判定してください。

ブレーキタイプ	ブレーキパッド固定方法	新品時のブレーキパッド厚み	エレベーター制御方式	要重点点検	要是正
ドラムブレーキ	リベット固定	6mm 以上	電気制動	「要是正の残存厚み」×1.1 以下の残存厚み	残存厚みが4.0mm 以下
			機械制動	「要是正の残存厚み」×1.2 以下の残存厚み	
		6mm 未満	電気制動	「要是正の残存厚み」×1.1 以下の残存厚み	残存厚みが4.4mm 以下
			機械制動	「要是正の残存厚み」×1.2 以下の残存厚み	
	リベット無し		電気制動	「要是正の残存厚み」×1.1 以下の残存厚み	残存厚みが2.5mm 以下
			機械制動	「要是正の残存厚み」×1.2 以下の残存厚み	

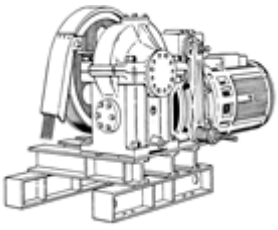
ブレーキパッドがリベット固定の巻上機で新品時のブレーキパッド厚みの判別方法

・6mm 以上のブレーキパッド取り付けられた巻上機

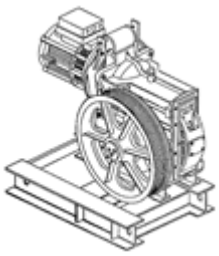
CT 型 ： モーターシャフトが水平で、歯車が上にありモーターが減速機に取り付けられている巻上機

AT 型 ： モーターシャフトが水平で、歯車が下にありモーターが減速機に取り付けられている巻上機

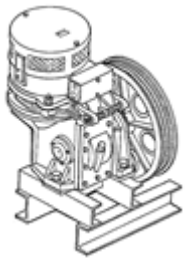
VTR 型 ： モーターシャフトが垂直な巻上機（VTR 型はパッド固定リベット無です。）



CT 型



AT 型



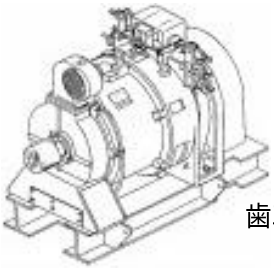
VTR 型

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

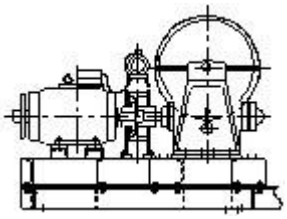
・6mm 未満のブレーキパッド取り付けられた巻上機

歯車なし式の巻上機 ： 減速歯車の無い巻上機

BT 型 ： シャフトが水平で、歯車が上にあり巻上機台にモーターが直接取り付けられている巻上機



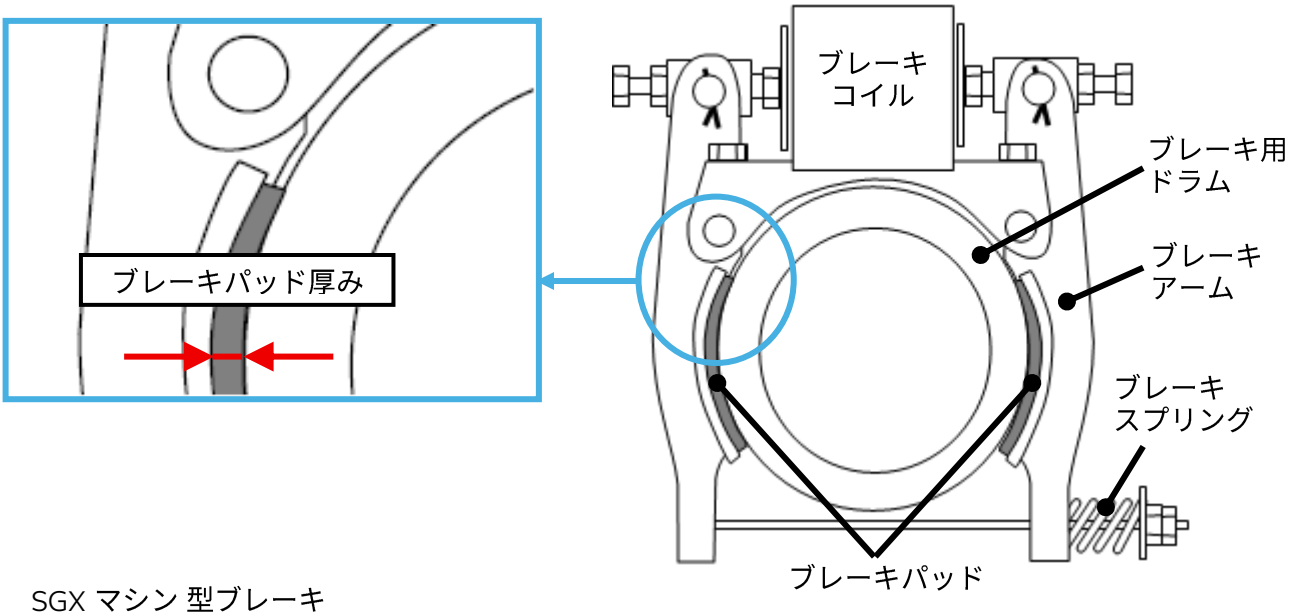
歯車なし式巻上機



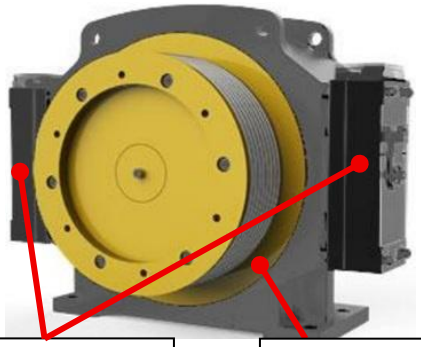
BT 型

ドラム式ブレーキ測定方法

ブレーキパッド厚みを、ノギス、パッドスケール等にて測定する。



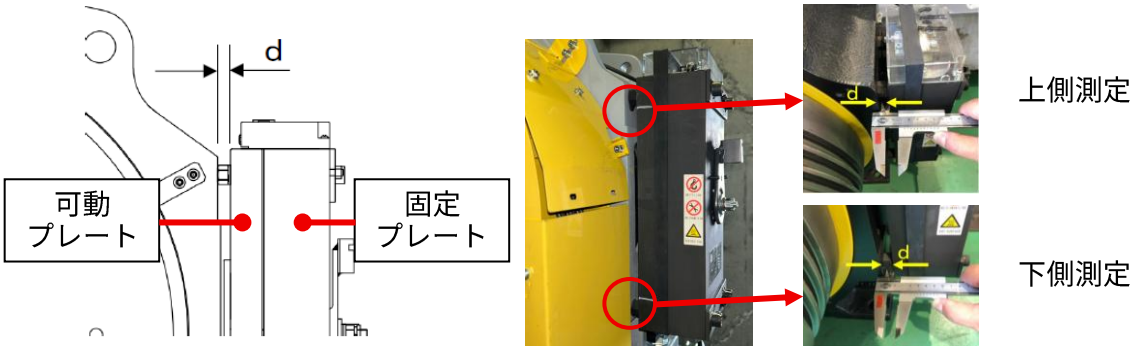
SGX マシン 型ブレーキ



© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

SGX マシン 型ブレーキ測定方法

ｄ寸法をブレーキユニット左右それぞれの上下 2 箇所でノギスにより測定し、測定結果を判定基準に基づいて検査判定してください。
ブレーキパッドの摩損、摩耗に伴い固定プレートと可動プレートの隙間が増加し、ｄ寸法が減少するため、ｄ寸法を測定することでブレーキパッドの摩損、摩耗状態を確認できます。
寸法測定は、端子ボックスの無い綱車側で行ってください。



タイプ	巻上機	初期値	要重点点検	要是正
SGX	SGX450	銘板シール記載 （設計値 14.0 ㎜）	初期値からの変化量が 2.0 ㎜未満でないこと	初期値からの変化量が 3.0 ㎜未満でないこと
	SGX600 SGX750	銘板シール記載 （設計値 16.0 ㎜）	初期値からの変化量が 2.0 ㎜未満でないこと	初期値からの変化量が 3.0 ㎜未満でないこと
	SGX1000 SGX1250	銘板シール記載 （設計値 20.0 ㎜）	初期値からの変化量が 3.0 ㎜未満でないこと	初期値からの変化量が 4.0 ㎜未満でないこと

5.1.2 ディスクブレーキ ★重要

ディスクブレーキは、回転するディスクを左右のブレーキパッドで挟み込んで制動力するタイプと、ディスクパッドがモーターシャフトと共に回転し、固定板がパッドを挟み込んで制動力するタイプがあります。
ブレーキパッドは巻上機別に以下のように判定方法が分類されます。また、巻上機の形状によりブレーキパッドの交換基準が異なります。
左右のブレーキパッドの残存厚みを測定し、そのうち最も摩損、摩耗の進んだパッドの測定結果を用いて、判定基準に基づき検査判定してください。

ブレーキタイプ	エレベーター制御方式	要重点点検	要是正
ディスクブレーキ	電気制動	「要是正の残存厚み」×1.1 以下の残存厚み	新品ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾆﾝｸﾞ厚みに対して 1.0mm 以上の磨耗
	機械制動	「要是正の残存厚み」×1.2 以下の残存厚み	

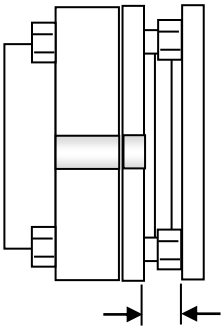
※ SPEC-JR 及び SPEC-SOCIE に関しましては、要重点点検は 9.4 mm 以下になります。
Order REVO の UCMP 付に関しましては、要重点点検は 5.0 mm 以下になります。

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

ディスクブレーキ測定方法

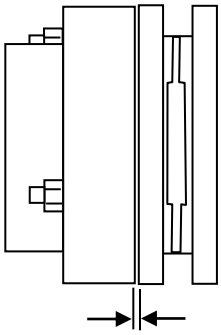
ディスクパッドがモーターシャフトと共に回転し、固定板がパッドを挟み込んで制動力するタイプ

巻き胴型及びホームエレベーター



ブレーキパッド厚み

GeN2/3 シリーズ・NGH（ペンシル型）



ブレーキギャップ(可動量)

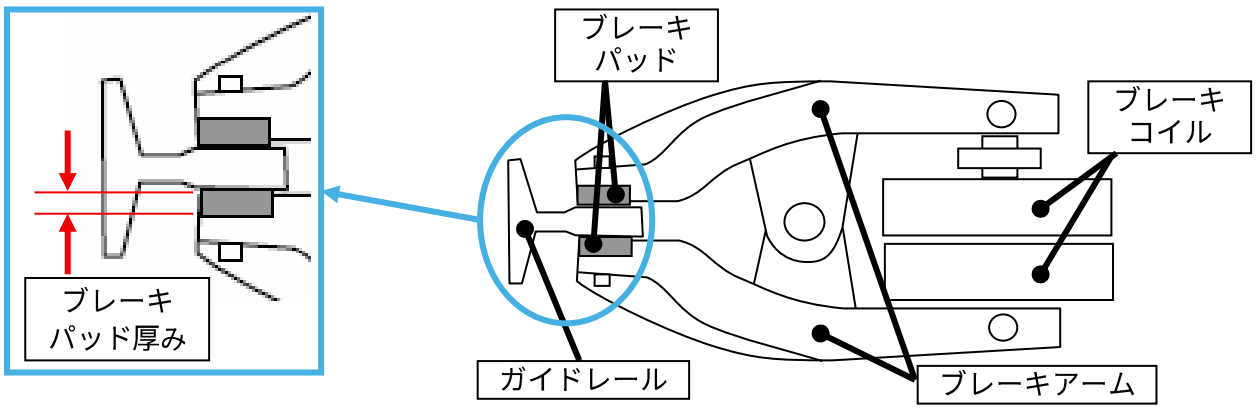
ブレーキギャップ(可動量)測定タイプの寸法は特殊な為、下記表を参照願います。（停止中に隙間を測定）

ブレーキギャップ(可動量)測定タイプ	要重点点検(mm)	要是正(mm)
戸開走行保護装置無し：ＧｅＮ２シリーズ	0.45 以上	0.50 以上
戸開走行保護装置付き：ＧｅＮ２/３シリーズ	0.40 超え	0.45 超え
戸開走行保護装置無し：NGH	0.55 以上	0.60 以上
戸開走行保護装置付き：NGH(ENNNUN-0261)	0.53 以上	0.58 以上
戸開走行保護装置付き：NGH(ENNNUN-1966)	0.40 超え	0.58 超え
戸開走行保護装置付き：NGH(ENNNUN-2799,3025)	0.53 超え	0.58 超え
戸開走行保護装置付き：Gen2/3(ENNNUN-2457,2610,2830)	0.53 超え	0.58 超え
戸開走行保護装置無し/付き：GeN2/3 シリーズ（ENNNUN-9229）ブレーキ FUKA：20236AD2	0.50 超え	0.55 超え
RENOVA JR：ENNNUN-2654	0.40 超え	0.45 超え

※ブレーキギャップ(可動量)測定タイプは、パッドが消耗すると可動量が広くなります。

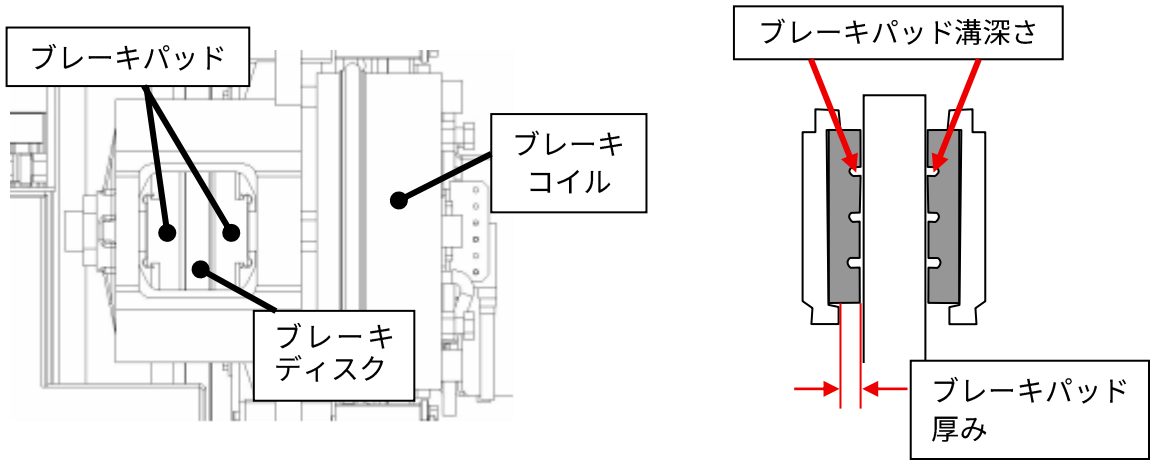
※RENOVA JR：ENNNUN-2654 は３箇所以上のポイントを測定し、その平均値で判定してください。

リニア式



© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

回転するディスクを左右のブレーキパッドで挟み込んで制動力するタイプ



参考

ディスクブレーキを使用したエレベータータイプ及び巻上機別のディスクブレーキパッド要是正寸法表

タイプ	機種	ブレーキパッド残存厚さ 要是正寸法(mm)
Ｅ４１３	PM138	5.0 以下
ＯｒｄｅｒＲＥＶＯ	PM5T	4.5 以下
SPEC JR	215TD	9.0 以下
SPEC SOCIE	301DD	
ﾎｰﾑｴﾚﾍﾞｰﾀｰﾄﾗｸｼｮﾝ式	SK-100- 2AS	4.0 以下
ｴﾚﾎｰﾑ K03B	8VTH	4.5 以下
ﾘﾆｱ	TLIN	4.5 以下

のり愛号シリーズ/小型エレベーター		
タイプ	機種	ブレーキパッド残存厚さ 要是正寸法(mm)
K04A	5VDH	4.5 以下
K04B	5VDH-ST	
K05A/K06A	5VTH	4.0 以下
K07A	5HDH	7.8 以下
K08A/K09A/K10A	5HDH-B	
K08B/K09B/K10B	5HDH-C	

戸開走行保護装置付ディスクブレーキパッドの判定寸法

タイプ	巻上機	初期値	要重点点検	要是正
E413	PM138	6.0mm	溝深さが 0.5mm 以上でないこと	溝深さが 0mm 以上でないこと
	30T	6.35mm	残存厚さが 4.79mm 以上でないこと	残存厚さが 4.35mm 以上でないこと
	SM160	6.0mm 溝深さ 1.0mm	溝深さが 0.5mm 以上でないこと	溝深さが 0mm 以上でないこと
			0.5mm のピアノ線が入らないこと	溝深さが 0mm 以上でないこと
BOMCO3	BOMCO3	4.5mm	残存厚さが 3.5mm 以上でないこと	残存厚さが 3.0mm 以上でないこと
			ｹﾞｰｼﾞの中間（3.5mm）が入らないこと	ｹﾞｰｼﾞの先端（3.0mm）が入らないこと
Order REVO	PM5T	6.0mm 溝深さ 1.5mm	溝深さが 0.5mm 以上でないこと	溝深さが 0mm 以上でないこと
			0.5mm のピアノ線が入らないこと	溝深さが 0mm 以上でないこと
ARISE MOD	3.5T	4.5mm	残存厚さが 3.5mm 以下であること	残存厚さが 3.0mm 以下であること
	5.2T		ｹﾞｰｼﾞの中間（3.5mm）が入らないこと	ｹﾞｰｼﾞの先端（3.0mm）が入らないこと
	6.8T	6.0mm 溝深さ 1.5mm	溝深さが 0.5mm 以上でないこと	溝深さが 0mm 以上でないこと
			0.5mm のピアノ線が入らないこと	溝深さが 0mm 以上でないこと

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

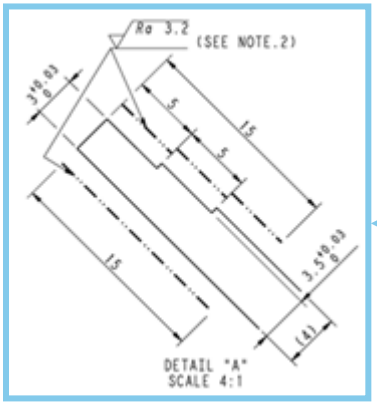
BOMCO3 及び ARISE MOD 測定方法

ブレーキパッドゲージの挿入可能位置により残存厚みを判定する。
ブレーキパッドの摩耗に伴いブレーキディスクとパッド固定ブロックの隙間が減少するため、ブレーキゲージの挿入位置でブレーキパッドの摩耗状態を確認できます。



1、ブレーキパッドゲージの各部寸法（先端：3.0mm、中間：3.5mm、根元：4.0mm）が規定値以上であることを確認する。
2、ブレーキディスクとパッド固定ブロックの間にブレーキパッドゲージを挿入し、挿入位置によりブレーキパッドの残存厚みを測定する。
3、各ブレーキパッドのうち、最も摩耗の進んだパッドの残存厚みを測定値として採用し、判定基準に基づき検査判定を行う

ゲージ挿入位置	判定
全て入る	指摘無し
3.5mm 入らない、 3.0mm 入る	要重点点検
3.0mm 入らない	要是正

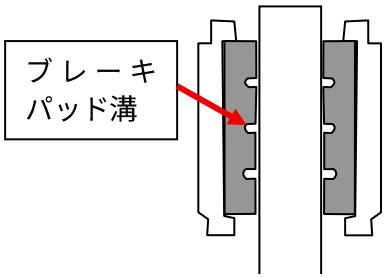




© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

Order REVO 及び ARISE MOD 測定方法

ブレーキパッド溝に Φ0.5mm のピアノ線が挿入可能かどうかで判定する。
本手順は、ブレーキパッドに摩耗確認用の溝が設けられているタイプを対象とします。
ブレーキパッドは摩耗の進行に伴い溝深さが浅くなるため、Φ0.5mm のピアノ線の挿入可否および、溝の有無を目視で確認することで、ブレーキパッドの摩耗状態を確認できます。

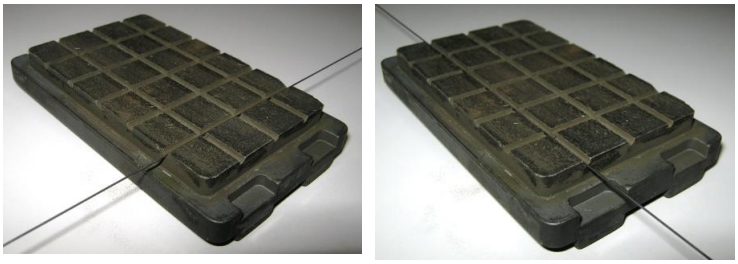


1、Φ0.5mm のピアノ線をブレーキパッドの溝に挿入する。
2、ピアノ線の挿入可否を確認する。
3、あわせて、溝の有無を目視で確認する。

ピアノ線挿入状況と目視確認	判定
ピアノ線が奥まで通る	指摘無し
ピアノ線が途中で止まる 　　または、入らないが溝は見える	要重点点検
溝が見えない（溝がない）	要是正

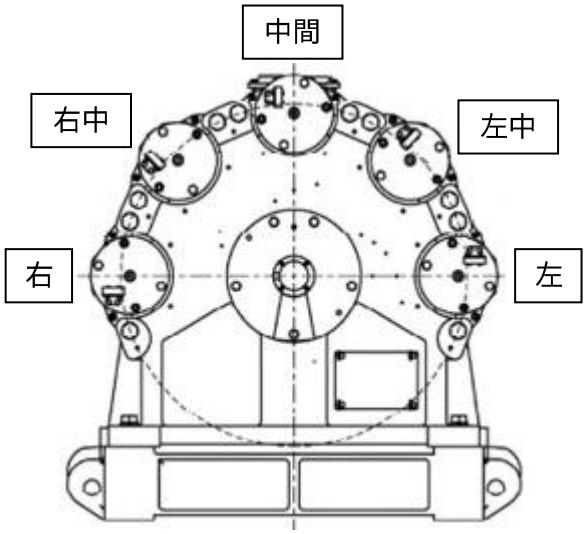


ブレーキパッド単体外観



ピアノ線を通したイメージ

BOMCO3 ブレーキ配置と各ブレーキユニット呼称



出力軸側よりブレーキユニットを見ての呼称となります。
（左図はブレーキユニット取付側より見ています）

ブレーキ 5 個の場合
1 番(左)、2 番(左中)、3 番(中間)、4 番(右中)、5 番(右)

ブレーキ 4 個の場合
1 番(左)、2 番(左中)、3 番(右中)、4 番(右)

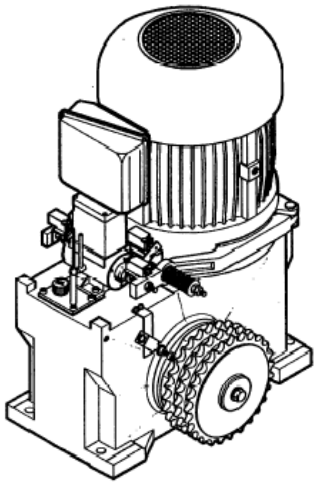
ブレーキ 3 個の場合
1 番(左)、2 番(中間)、3 番(右)

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

5.2 エスカレーター

弊社製のエスカレーターは、ドラム式とディスク式の２種類があります。
検査対象となるブレーキの形状を確認したのちに、ブレーキパッドの摩損、摩耗量をエレベーターと同じように、ブレーキパッドの残存厚みを測定し、そのうち最も摩損、摩耗の進んだパッドの測定結果を用いて、判定基準に基づき検査判定してください。

5.2.1 ドラムブレーキ

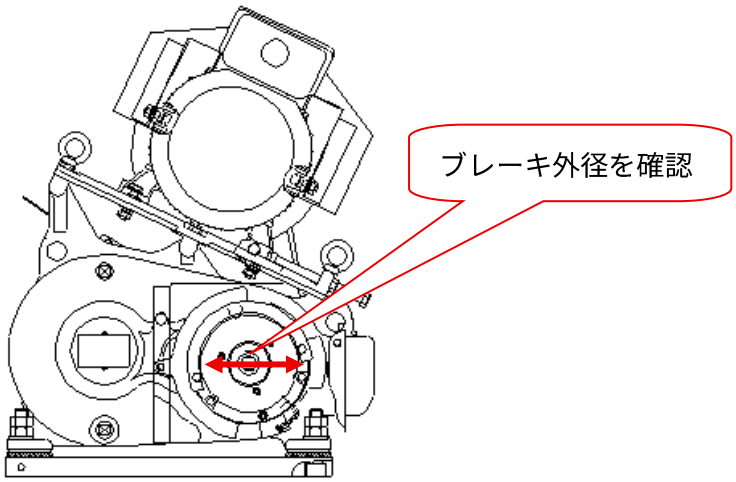


マシンタイプ	ブレーキパッド固定方式	要重点点検寸法(mm)	要是正寸法(mm)
EC-SW	リベット	4.4　以下	4.0　以下
16BEC			
EC2-7	接着剤	2.2　以下	2.0　以下
16VEC			
16VEC-RH			
11VEC			
EC143			
EC203			
ECH3			
EC-W1			
EC-W1a			

509MT/610MT (ﾌﾞﾚｰｷ下部に明記した "TYPE"　"FORM"を確認)		要重点点検寸法(mm)	要是正寸法(mm)
TYPE	FORM		
BSH	V7	5.3 以下	4.8 以下
BD375	AD		
記載なし	記載なし		
BSH	H11,H15	4.4 以下	4.0 以下
BSHD	H11,H15,H20,H30		
	H37	5.3 以下	4.8 以下

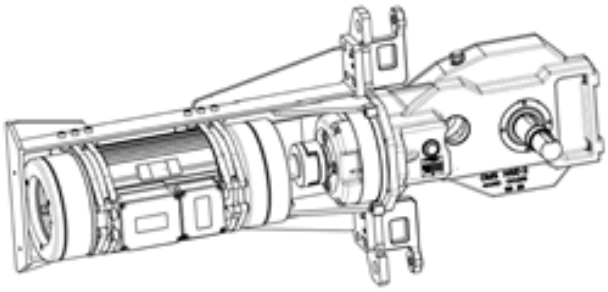
© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

5.2.2 ディスクブレーキ



ブレーキ型式	ブレーキ外径(mm)	要重点点検寸法(mm)	要是正寸法(mm)
MNB5K	165 ～ 170	9.4　以下	9.0　以下
MNB10K	190	9.5　以下	
MNB20K	230		
MNB40K	275	14.9　以下	14.0　以下
509MT/610MT	-	8.8　以下	8.0　以下

5.2.3 ディスクブレーキ（Next Step）



判定基準
ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾆﾝｸﾞが摩耗したことを保守ﾂｰﾙにより確認する。
ﾌﾞﾚｰｷに付いている BRAKE LINE WEAR MONITORING が要重点点検状態になった場合保守ﾂｰﾙ上で警告を出す。
警告後 1 万回の起動でｴｽｶﾚｰﾀｰは動かなくなる。

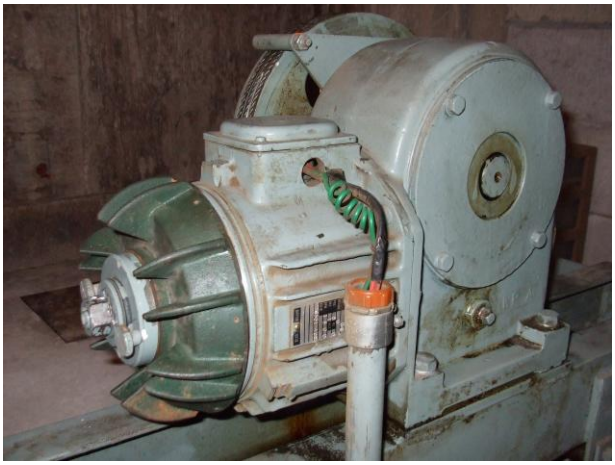
検査結果表の記入法

“イ”を○で囲む	
判定基準	
・要重点点検	警報有り　　警報後　～ 9999 回の起動
・要是正	警報後、10000 回以上の起動
・寸法欄	警報なし、警報後は起動回数を記入

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

5.3 小荷物専用昇降機

弊社製の小荷物専用昇降機は、エレベーターと同じようにブレーキパッドの残存厚みを測定し、そのうち最も摩損、摩耗の進んだパッドの測定結果を用いて、判定基準に基づき検査判定してください。



6 BT

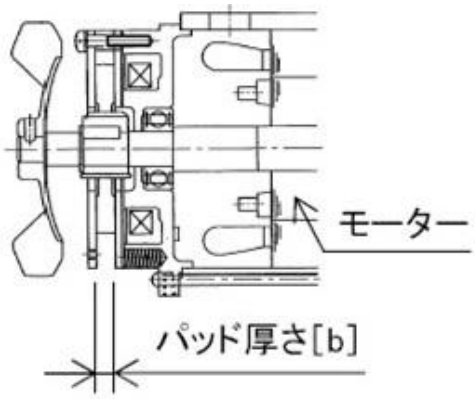


BZ

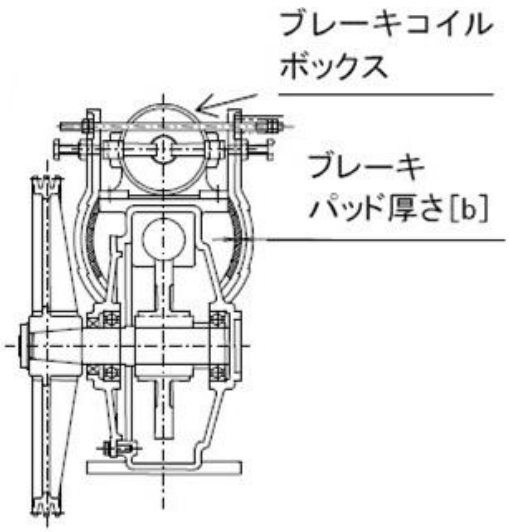
マシンタイプ	要重点点検寸法(mm)	要是正寸法(mm)
6BT	4.2 以下	3.5 以下
BZ	5.0 以下	4.5 以下

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

5.3.1　6BT、BZ マシン以外の小荷物専用昇降機
巻上機銘板に記載の、巻上機型名で判定する機種



ディスクブレーキ方式



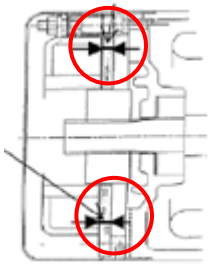
ドラムブレーキ方式

巻上機型名	ブレーキ方式	パッド残存厚み(mm)	
		要重点点検	要是正
RMG-30	ディスクブレーキ方式	b < 5.4	b ≦ 4.9
RMG-50			
RMG-100		b < 7.2	b ≦ 6.7
RMF-200	ドラムブレーキ方式	b < 4.0	b ≦ 3.0
RMF-300			
RMF-350			
RMG-340			
RMG-350			
RMG-360			
RMF-500			

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

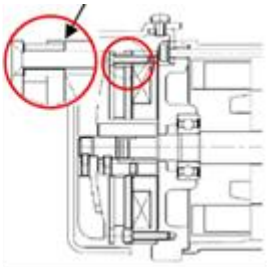
ディスク型





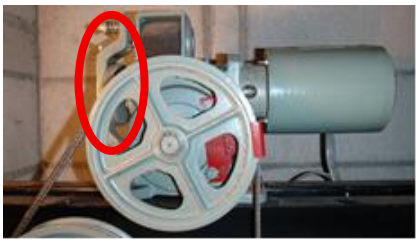
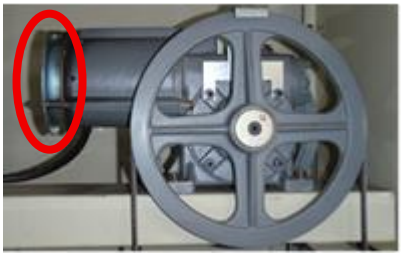
巻上機型名	ブレーキ方式	パッド残存厚み(mm)	
		要重点点検	要是正
MH-50 TDM04-5-20-25 TDM04-5-25-30 TDM04-2-45	ディスクブレーキ方式	1.5 以下	1.0 以下
MH-100 TDM08-5-20-25 TDM08-5-25-30 TDM08-2-45			
MH-200 TDM15-6-20-25 TDM15-5-25-30 TDM15-3-45		7.5 以下	7.0 以下
MH-300 TDM22-6-20-25 TDM22-5-25-30 TDM22-3-45			





巻上機型名	ブレーキ方式	すき間にて計測(mm)	
		要重点点検	要是正
F3S25N2	ディスクブレーキ方式	0.3 以上	0.35 以上
F3S30N2		0.4 超え	

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社

SK (50～400)	SK30	KM
		
単相式	ハブ式	回転板式
		
ツイン綱車		
	○ ブレーキ取付け位置	

巻上機型名	ブレーキ方式	パッド残存厚み(mm)	
		要重点点検	要是正
SK50	ドラムブレーキ方式	4.4 以下	4.0 以下
SK100			
SK200		5.0 以下	4.5 以下
SK300			
SK400		5.5 以下	5.0 以下
KM		3.0 以下	2.5 以下
ツイン綱車		5.5 以下	5.0 以下
SK30	ディスクブレーキ方式	2.4 以下	2.0 以下
回転板式		1.2 以下	1.0 以下
ハブ式		4.4 以下	4.0 以下
単相式		1.2 以下	1.0 以下

© 2026 日本オーチス・エレベータ株式会社